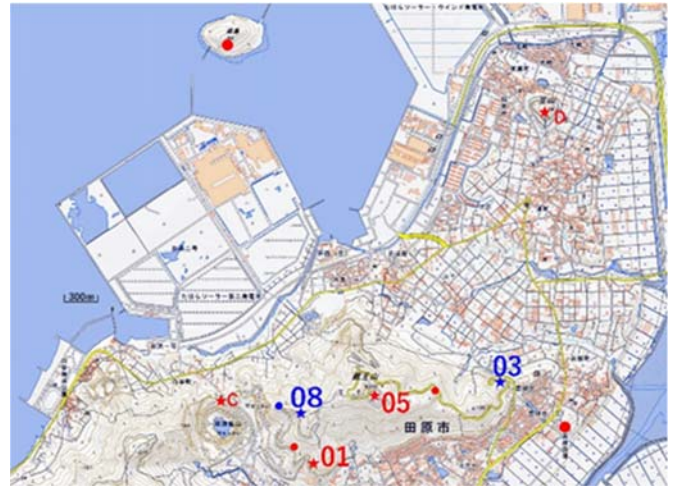


95 石灰岩と蛇紋岩

豊鉄渥美線の三河田原駅の北に蔵王山（標高 250.1m）があります。蔵王山と西隣の衣笠山（標高 278.4m）は山頂部の風化が進み、山稜は丸みを帯びた山の形（晩壮年期）になっています。この周辺では、三波川変成コンプレックスの御荷鉾ユニットの南に、石灰岩やチャートのスラブを含む混在岩を主体とする秩父帯のジュラ紀付加コンプレックスが分布しています。



田原鉱山（1982 年撮影）



蔵王山地には嵩山ユニットが分布すると考えられ、下部は連続性の良いチャート岩体及び混在岩からできています。混在岩には玄武岩、石灰岩、チャートの岩塊が含まれます。大規模な石灰岩岩体と、それに伴われる玄武岩を含む混在岩を主体とする岩石が、蔵王山西方及び北方の採石場に露出しています。玄武岩岩体中には石灰岩が岩塊として取り込まれています。

田原石灰岩体

蔵王山西斜面とそれに隣接する衣笠山の東斜面の山麓には連続した大規模な田原石灰岩体があります。田原市片浜や白谷では、石灰岩や御荷鉾ユニットの変成岩の採石が行われていました。田原鉱山では赤い表土層が 20～35m ほど覆っており、その下に黒っぽい粘板岩の層と灰白色の石灰岩層があります。ボーリングでは地下 130m くらいまで石灰岩があることが知られています。大型化石は含まれませんが、*Norigondolella navicula* (Huckriede, 1958) というコノドントの化石が報告されています。この化石は三疊紀後期の前期ノーリアン（2.3 億～2.8 億年前）のものです。蔵王山側最上部からは *Mockina* 属と考えられるコノドント片も検出されています。

白雲洞と呼ばれる鍾乳洞もありましたが採掘で消滅しました。別のところに小さな鍾乳洞が見つかったこともあります。1600 年代末には石灰製造が始まりましたが、2002 年には閉山し、現在は田原物産センター（田原セメント産業会館）当時をしのぶ資料が展示されています。



蔵王山（地点 01） チャート層



蔵王山（地点 03） 混在岩



蔵王山（地点 05） チャート層



←蔵王山 座禅石 チャート

笠山と姫島のかんらん岩

蔵王山の山頂からは三河湾，知多半島，豊橋市街，太平洋が一望できます。南には汐川があり沖積低地が広がっています。汐川河口付近には遠浅の干潟が見られます。北側を見ると小さな小山が見えます。笠山（標高 78m）でその左方の海上には姫島が見られます。これらは御荷銚帯のかんらん岩や蛇紋岩からできています。黒～暗緑色をした岩石で，蛇紋岩化作用を受けて変質し割れ目が多くできています。



蔵王山から見た笠山



笠山の変成かんらん岩



姫島 蔵王山山頂から

姫島は最高地点は標高 62.1m で、海岸付近以外露頭は見られません。姫島の塩基性岩は蛇紋岩に変質しています。南岸は亜角礫～亜円礫を含む第四系の固結度の高い砂礫層が見られます。無人島で島に渡る定期船はありません。

吉胡貝塚

紀元前 1000 年前後にあたる縄文後期・晩期の遺跡が旧田原町（吉胡貝塚）、旧渥美町（伊川津貝塚）にあり、そこから数多く発掘された人骨により、屈葬や抜歯の風習など、縄文人の生活習慣の一部が明らかになった。下図左は 1980 年頃に撮影したもので猪の幼体の頭骨化石も見られました。また、現在の吉胡貝塚資料館では、屋外に溝を掘ってできた地層断面で実際の貝塚の様子が見られます（下図右）。



かつての吉胡貝塚（1981 年撮影）



吉胡貝塚で見られる保存された貝層

主な参考文献

- 池田芳雄，1983，姫島の岩石 in 田原町姫島自然環境調査報告書．伊良湖 16，伊良湖自然科学博物館。
- 村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト 人と大地との関わり 第二版.189p.
- 中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2008，豊橋及び田原地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，113 p.
- 中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2010，伊良湖岬地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，69 p.